



最先端の心臓ペースメーカー治療

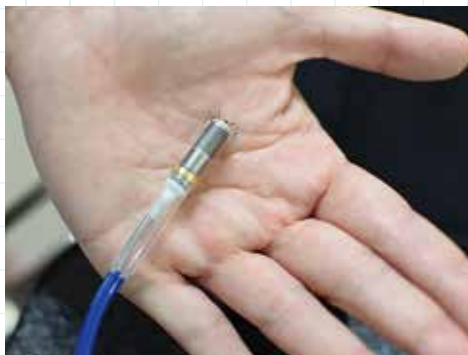
副院長・循環器内科部長 土肥直文

心臓の拍動がゆっくりすぎたり、数秒から十数秒心臓が停止してしまうことによって、意識がなくなったり、その前兆である「ふわっと意識が遠のきそうになる」という症状が出現する病気があります。このような病気では、心臓の拍動がゆっくりすぎることで心臓に過度な負担がかかり、心臓の機能が徐々に低下してきて心不全の症状（息切れ、むくみなど）がでることもあるのです。このような病態に、お薬は効果がなく、心臓ペースメーカーの治療が必要になります。心臓ペースメーカーは、24時間365日患者さんの心拍を監視し、心拍が良好なときは何もせず、心拍が停止したときだけ、心臓に微少な電流を流して心拍を生み出す働きがあり、これにより意識消失が起こらなくなるのです。

心臓ペースメーカーの歴史は古く、現在のような電池式心臓ペースメーカーは1950年代から開発が始まっています。その後完全体内植込み型のペースメーカーが生まれ、年々小型化してゆきました。ペーシング（心臓に電気を流す）様式もどんどん高度化し、近年では（事前に設定変更したときに限って）MRI撮像が可能なモデルが当たり前になっています。これら最近の心臓ペースメーカーはすべて鎖骨の下に植込み、そのペースメーカー本体から血管を通して心臓の筋肉にリード線をくっつけるタイプのものでした。しかし、いまから2年ちょっと前の2017年に、テクノロジーが一挙に進み、超小型で心臓内に直接くっつけるタイプの「リードレスペースメーカー」が生まれました。このタイプの心臓ペースメーカーは、主に心拍が遅い心房細動の高齢者のために開発されたもので、すべての患者さんに合うものではありません。しかし、高齢者でペースメーカーが必要な患者さんにとってはとてもよい心臓ペースメーカーになっています。

一方、通常タイプのペースメーカーは、一定の大きさがあるので機能も充実しており、多くの患者さんでは、この鎖骨の下に植込むタイプが主流です。しかも、ごく最近では、リード線の心臓内での位置を調整することで、より心臓にやさしいペーシング（ヒス束ペーシングと呼んでいます）が可能になっています。これからも、心臓ペースメーカーの領域は、テクノロジーの進化により、患者さんにとって、よりよいものになってゆきます。

奈良県西和医療センターでは、これからも常に最先端の治療をこの地域の住民の皆様に提供して参ります。



左の写真はリードレスペースメーカーを心臓に挿入するカテーテル

右の写真は実際に心臓に入る部分（リードレスペースメーカー）

（注意）このペースメーカーは限られた病態の高齢者のために開発されたものです。全ての患者さんの病態に対応するものではありません。

下肢静脈瘤とは？

簡単にいうと…
足の静脈がコブ(瘤)のように膨らんでいる病気です。

下肢静脈瘤の症状

血管が皮膚表面にコブのように浮き出る
足がだるい 足のむくみ 足のこむら返り
足の湿疹 足の色素沈着 足の潰瘍 など



▶ 大伏在静脈瘤

◀ 小伏在静脈瘤

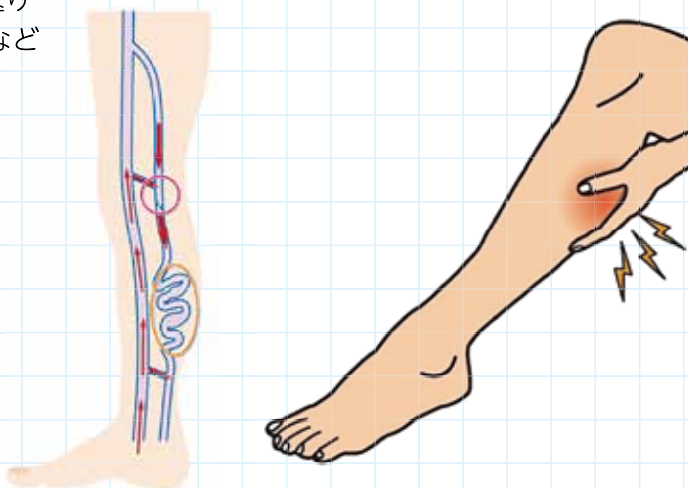
原因は？

立ちっぱなしなどで血液が足に溜まる。

静脈の弁が壊れて血液が逆流する。

さらに血液が足に溜まる。

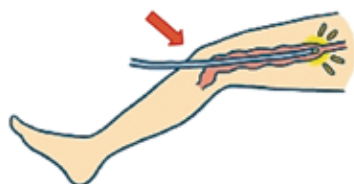
足の倦怠感、むくみ、色素沈着が生じる。



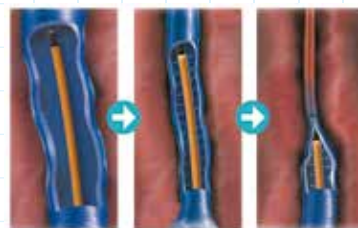
治療方法

当科では、高周波治療を行っています。

カテーテル挿入



内側から熱で静脈の壁を焼灼すること
静脈瘤への血流がなくなり静脈瘤消失と
とで血流遮断



足のむくみ、倦怠感、見た目などの症状が
気になる方は是非一度、当科まで気軽にご相談ください。

外来表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術日	田村	丹羽	手術日	田村		
午後		田村					